

観光シーズンにおける高千穂峡周辺の 渋滞緩和に向けた取組について (中間報告)

下岡 敏樹¹・岸川 修²

¹九州地方整備局 延岡河川国道事務所 調査第二課 (〒882-0803 宮崎県延岡市大貫町1-2889)

²九州地方整備局 延岡河川国道事務所 調査第二課 (〒882-0803 宮崎県延岡市大貫町1-2889)

宮崎県内一の観光地である高千穂峡周辺では、紅葉をはじめとした観光シーズンに多くの来訪客で賑わいをみせる一方で、駐車場へ向かう自動車交通が集中する等の渋滞が発生している。今回、観光シーズンにおける高千穂峡周辺での渋滞緩和に向けた実証実験を計画しており、その取組について発表する。

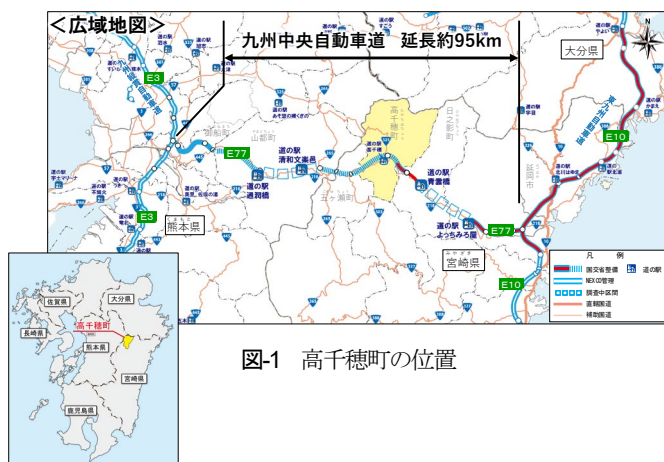
キーワード 観光活性化, 渋滞対策, 社会実験

1. 高千穂町の概要

高千穂町は九州山地のほぼ中央部、宮崎県の最北端に位置しており、現在整備が進められている九州中央自動車道のルート上にある。

宮崎県内一の観光地である高千穂峡など、観光資源が豊富に存在し、天の岩戸開きや天孫降臨などの神話の町としても知られている。

高千穂町の創生総合戦略では、観光による交流人口の増加を基本目標の1つの視点に設定しており、「何度も訪れたい魅力ある滞在型観光地づくり」を推進している。



2. 高千穂町の交通手段

高千穂町には鉄道が存在しないため、町外からの主な来訪手段は自動車か高千穂町発着・経由の高速バス・特急バスとなっている。

観光期には、町内の主要観光地および周辺駐車場を巡回する循環シャトルバスが運行している。

その他の周遊手段として、レンタサイクル、レンタルスクーター、レンタルバギーなどがある。

3. 高千穂町が抱える地域課題と対策の方向性

(1) 高千穂町交通計画協議会

高千穂町が抱える地域課題を共有し、課題解決に向けた方策を検討するため、高千穂町内関係機関及び学識者を中心メンバーとした協議会として、令和元年10月10日に設立された。

高千穂町交通計画協議会（以下、交通計画協議会）は、社会実験による検討方策の効果検証、効果が確認できた施策の本格導入を目指しており、これまでに3回開催されている。

表-1 高千穂町交通計画協議会メンバー

高千穂町交通計画協議会メンバー	
宮崎大学地域資源創成学部 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 宮崎県、高千穂町 国土交通省九州地方整備局、延岡河川国道事務所 宮崎交通、宮交タクシー 高千穂町観光協会、高千穂町商工会、高千穂町旅館業組合 道の駅高千穂 高千穂警察署	

表-2 交通計画協議会開催状況

回数	日時	協議内容
第1回	R1.10.10	高千穂町の交通手段、多客期の渋滞状況、秋季交通実態調査内容、今後の進め方
第2回	R2.10.7	秋季交通実態調査結果報告、高千穂町の交通課題と対策の方向性
第3回	R3.3.24	高千穂町が抱える現状と課題を踏まえた対策の方向性、中長期的な視点で取り組む対策内容

(2) 地域課題

a) 特定区間に観光交通が集中し、渋滞が発生【課題①】

観光期には、人気観光スポットの高千穂峡遊覧貸しポート乗り場を目指した観光交通が最寄駐車場（第1御塩井、第2あららぎ、第3大橋）に集中することで、アクセス経路となる町内商店街通りでは著しい渋滞が発生し、周辺住民の車両が通行できないなど、地域住民の暮らしに問題が発生している。

また、最寄駐車場が満車になると、駐車場を探す「うつつき車両」が発生することで、渋滞を助長している。

b) 路上に溢れる観光客と車との錯綜が発生【課題②】

観光期の高千穂峡（渓谷）内は、観光客が路上に溢れるほどの賑わいをみせるが、道路が狭隘なため、観光客とシャトルバス等が路上で錯綜するなど、安全性が低下している状況にある。

c) 観光交通手段が乏しく、周遊行動が低迷【課題③】

高千穂峡遊覧貸しポート乗り場や高千穂神社等の人気観光スポットには観光客が集中するものの、これら観光スポットから町内商店街通りへのアクセス交通が乏しいため、足を運ぶ観光客が少ない。

また、豊富な観光スポットを有しているが、情報を提供できていないことや観光スポット間の移動が車主体であるため、町内に滞在する時間が短い。



図-2 高千穂町が抱える地域課題

(3) これまでの高千穂町の取り組み

a) 循環バスの運行による渋滞緩和に向けた実証実験

令和元年11月2日～4日（秋季多客期）、高千穂町観光協会が主体となり、町内の渋滞緩和に向けた実証実験を実施した。

具体的には、高千穂峡内の駐車場（第1御塩井駐車場）

を封鎖し、田口野駐車場をメイン駐車場として誘導した後、循環バスで高千穂峡内に搬送する実験を実施した。

結果として、渋滞解消に一定の効果は確認できたが、最も観光客数の多いGW期における効果検証や運行ルートの検証も必要であることが分かった。

b) オーバーツーリズム解消と交流を創造する「新たな旅のカタチ」実証事業

高千穂峡遊覧貸しポートへの旅行者の一極集中による観光ピーク期のオーバーツーリズム解消と、貸しポート以外の体験・観光施設への回遊促進を目的に、令和3年2月13・14日、20・21日に高千穂町観光協会が「新たな旅のカタチ」実証事業を実施した。

分析結果として、体験予約システム事前予約の仕組みを構築することで、待ち時間のないスムーズな滞在、隠れた魅力の体験、観光消費額の拡大に繋がる可能性を秘めていることが分かった。

一方、高千穂での過ごし方提案や予約システムへの導線、観光MaaSの仕組み作りなどの課題も確認できた。

c) 高千穂町中心部の歩道整備及びチャレンジショップ開店支援

町内商店街への回遊を高めるため、高千穂町が都市再生整備事業で町中心部の歩道整備を実施した。更に、商業・観光の活性化による活気あるまちづくりに資するため、チャレンジショップ開店支援補助金を創設（平成28年～）した。

(4) 対策の方向性

交通計画協議会で検討された中長期的な視点で取り組む対策の方向性と対策内容（案）は以下の通りである。

表-3 対策の方向性と対策内容（案）

主な交通課題・地域課題	要因	対策の方向性	対策内容（案）
交通渋滞	①町内商店街通りを中心とした渋滞の発生（生活交通にも支障が発生）	①特定駐車場への交通の排除	A:P&Rの導入（フジバーキング整備等） B:駐車場の封鎖（御塩井駐車場）
	②町内の空車駐車場を探索する「うつつき車両」による渋滞の助長	②駐車場空き状況が分からない	C:駐車場の事前予約制度の導入（第2あららぎ駐車場） D:駐車場の満空情報の提供
安全性	③観光客とシャトルバス等が路上で錯綜	③道路が狭隘	E:新たなモビリティの導入
観光活性化	④商店街への立ち寄り客の低迷	④-1町内商店街への観光客の誘導	F:交通拠点の形成（がまたせ市場等）
	④-2町内の移動利便性の向上	④-2町内の移動利便性の向上	G:新たなモビリティの導入 H:シェアサイクルの導入
	⑤観光客の滞在時間が短い	⑤-1観光地間の移動が車主体 ⑤-2観光スポットの情報提供不足	I:観光MaaSの整備（魅力的な滞在コンテンツ造成）

4. 高千穂町の観光交通分散と回遊形成に向けた社会実験

(1) 実験目的

観光シーズンの交通集中による渋滞の改善や観光地内の安全確保及び、町商店街への観光客引き込みを目指し、

また、生活交通と観光交通が混在する観光地において、オーバーツーリズムによる交通課題（渋滞）を改善し、持続可能な観光地経営を確立する先進的な取組み事例を目指している。

交通計画協議会が主体で実施し、実験時期は令和3年7月下旬～令和4年8月上旬を予定している。

(3) 実験内容

a) 乗り継ぎ拠点を核とした交通インフラの形成

【実験期間】：[実験1]令和3年11月下旬，[実験2]令



和4年4月下旬～5月上旬

①町商店街通りのがまだせ市場（物産市場等が集積する場所）に乗り継ぎ拠点を整備し，【ルートA】大規模駐車場や高速バスセンター・道の駅及び主要観光施設（高千穂神社・あまてらす鉄道）と乗り継ぎ拠点を循環するシャトルバス，【ルートB】観光客が集中する高千穂峡と大規模駐車場，乗り継ぎ拠点を連絡するシャトルバスを運行する。

②高千穂峡ボート乗り場の最寄り駐車場（第2あららぎ）は、アクセス道路の渋滞を回避するため閉鎖し、高千穂峡内の移動を支援するグリスロの運行拠点とする。※実験b) 参照

③観光客の周遊活動を支援するモビリティとして、シャトルバスの乗降場にシェアサイクルポート（計9箇所）を設置する。

【実験目的】路上にも観光客が賑わう高千穂峡（渓谷）内を移動し、観光地情報を発信する「人と車が共存できる観光客向けのモビリティ」を検証する。

【実験期間】：[実験1]令和3年11月下旬，[実験2]令和4年4月下旬～5月上旬

【実験内容】：「実験1・2」下記①②を実施

①渋滞回避を目的に閉鎖する第2あららぎ駐車場を拠点に、シャトルバス乗り継ぎ拠点（実験(1)参照），観光スポット（玉垂の滝等），ボート乗り場を連絡するルート（約600m）にグリスロを運行する.

②運行を通じて、観光客で賑わう場所での安全確保（観光者との錯綜機会）、多様な観光支援方法（観光ガイドの役割等）を検証する。



図4 グリスロ運行実験の概要

【実験目的】a) に示した交通インフラ整備に加え、観光資源及び周遊観光パッケージを提供することで、観光客の周遊行動の変化を検証する。

【実験期間】：「実験1」令和3年11月下旬、「実験2」令

コロナ禍によって観光を取り巻く環境は厳しい状況ではあるが、収束後の観光需要回復を期待し、社会実験で把握する課題や効果を反映した新たな取り組みを展開することで、高千穂町独自の「持続可能な観光地経営」を確立できるよう支援していきたい。